

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272000298		
法人名	株式会社 楽天堂		
事業所名	スイートホームうなかみ		
所在地	千葉県旭市蛇園3060-1 0479-50-1780		
自己評価作成日	平成25年2月4日	評価結果市町村受理日	平成25年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-17		
訪問調査日	平成25年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さまは、のどかな田園風景と静かな住宅街に囲まれた施設で、明るい職員たちと、家庭的な雰囲気の中で、皆様日々穏やかに暮らされています。法人内外の医療連携も整っており、入居者様、ご家族様共に安心して過ごいただける体制が出来ております。お近くにお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社である「共生」を受け施設独自の理念を掲げ、具体的な「行動指針」が設定されている。それにもとずき、日々、全職員が一丸となって温かい家庭的なサービスに努めている。駅から近い住宅地と水田が混在する地域に所在しているので、散歩等の外出の利便性に優れている。防災安全面に充分配慮し、スプリンクラー・火災通報専用電話・火災受信機等を設置した、清潔感がある施設です。広報紙を近所の方々にも配布しているので、施設に対し、「おたがいさま」意識があり地域に溶け込んでいる。近所の方と「流しそうめん会」を開催した時は、天ぷらを持参し子どもたちも参加した。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共生」という社是と「助け合う心、ゆとりある生活、お互いの個性を尊重しぬくもりを笑顔に」という事業所理念を玄関及び事務室に掲示している。 毎日の朝礼時に唱和し全職員が共有・実践できるよう努めている。	「共生」という社是を受け、事業所独自の理念をもうけている。事業所に掲げられており、毎朝、朝礼時に唱和している。理念を受け、行動指針がもうけられているので、全職員が理念を共有し、日々の実践に反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に行き会った地域の方と挨拶を交わしている。毎年、地域行事に参加させていただき入居者の生活活性化に繋げている。「流しそうめん」を施設で開催し、地域の方を招待した。運営推進会議を活用しながら地域交流の促進に取り組んでいる。地元中学生の職業体験を受け入れているほか、毎年、海上中学校からプランターの花を持っての訪問がある。	広報誌「スイートホームあれこれ」を毎月1回発行し、家族や近所の家庭に配布している。海上中学校の職業体験施設として生徒を受け入れてたり、プランターの花を持っての訪問があったりする。また、鶴巻小学校の運動会に招待され、見学している。近所の方々は施設に親しみを持っている。「お互い様」意識から施設の周りの道路を清掃している。ボランティア団体が組織されているので、日常的に地域との交流が図られている。行事「流しそうめん」では子ども達も参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じ、地域の方々に御理解いただけるよう取り組んでいる。 今後は、地域の方々から認知症の接し方等の相談が受けられるよう情報発信を行っていきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員・民生委員・地域住民・入居者・家族等を構成員として、24年は運営推進会議を4回開催している。 議題としては、施設の取り組みや活動報告を行い、地域の理解の促進に努めるとともに、参加者から頂いた、ご意見・ご要望を全職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は市役所高齢福祉課職員・民生委員・地域住民・入居者代表・家族によって組織され、年4回実施した。施設の運営について報告した後、自由な雰囲気での情報交換をおこない、サービスの向上を図っている。議事録もよく整備され意見の反映が確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初めに入居者及び待機者名簿を持参、提出するとともに、随時業務上の報告・相談を行っている。 運営推進会議時に市職員から意見や情報等を確認している。	月初めに、入居者・待機者名簿を持参し報告している。運営推進会議にも参加していただいているので、施設の実情を細大漏らさず報告しながら指導・助言をうけサービスの向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に「身体拘束排除宣言」を掲示し、身体拘束排除のマニュアルを活用した研修の実施等により、全職員が身体拘束排除の意義を理解している。 玄関の施錠はせず、ベッドを柵で囲まないなど、拘束のないケアを実施している。	「身体拘束排除宣言」が掲示され、具体的なマニュアルも整備している。研修も随時おこなわれ、ミーティング時に事例をあげ、人権尊重の精神を培っている。 徘徊防止のため、玄関にチャイムが設置され、職員全員と利用者の目で温かく見守っている。利用者はゆったりとした雰囲気の中で、穏やかな表情をしていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを活用し、所内研修により虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる方はいないが、研修により全職員が学ぶ機会を持つことで必要時には支援できるように体制を整えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を検討していただく際は、重要事項説明書に基づいてご本人、ご家族への説明を十分に行い、不安な点や質問はないか尋ね、納得いただくまで話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各入居者に担当職員を決め、入居者が意見や苦情・不満等を話しやすい環境を作っている。 また運営推進会議や家族の面会時、電話連絡時等に家族の意見・要望を確認している。 利用者、家族からの意見は、会議にて検討して改善に努めている。	アンケートを年1回実施し意見・要望を受ける機会を設けている。意見箱も設置され、随時意見を収集し、広報紙「スイートホームあれこれ」に要望・意見に対し回答を掲載している。運営推進会議でも取り上げ、議題の一つとして話し合い、サービスの向上を図ってる。家族の面接時や電話連絡の時にも、要望を聞く姿勢が記録から確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	所内で月1回ミーティングを開催し、職員の意見・提案等を確認している。 所長会議や部門会議のなかで、職員の意見・提案を反映させている。	年2回定期的に文書により、職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。しかし、無記入の職員や日頃の様子を受け、所長面接を実施し全職員の意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望をなるべく取り入れ、すべての職員が働きやすい環境になるよう考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回 所内研修をミーティング時に行っている。社外研修にも受ける機会を設け、受講者は所内で報告を行い、他職員と情報を共有している。 QC・QS活動を通じてケアの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭市グループホーム連絡会が発足し、意見交換を行った。今後、年1回開催される予定である。 また、地域ケア会議、海匠地区ケアマネ会議にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人との面談で困っていること、不安なことを傾聴して安心できる言葉かけを行っている。 要望については一緒に取り組んでいくことを伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事などを十分に聞きだし、今のニーズが何かを把握するよう努めている。 事業所がどのような対応できるか説明し、安心して利用していただけるよう、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の際、今の状況、困っている事をお聞きして必要としている支援を見極めている。 他の介護サービスの情報提供も行いながら、グループホームでの生活が最善か本人、家族と共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの経験を活かした活躍場面が作られるよう心がけ、毎日の会話を大切に、本人の意思を尊重できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡をとりながら、利用者を共に支えあっている関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族との外出・外泊は自由となっており、家族との関係継続に配慮している。 知人・友人の来訪も制限していない。年賀状などのやり取りなども支援している。	毎週火曜日に、馴染みの友人達が訪問する利用者が1名いる。 利用者の希望により職員が同伴し訪問することもある。 職員が指導しながら「元気です」等書いた年賀状をだし、馴染みの人との関係が続くよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然に声掛けや手助けを行える関係づくりが出来ており、時に問題が生じた際には、職員が間に入り、溝が生じることのないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退所となられた方にも連絡をとり、本人・家族の支えになれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と密にコミュニケーションを図り、思いや暮らし方の希望を把握するよう努め、本人にとってどのように暮らすことが安心なのか、職員間や家族も交えて話し合っている。	利用前の生活がどのような暮らし方をしていたか、家族と話し合い情報を共有している。それをうけ、存在感のある生活が営まれるよう支援している。希望者には食器拭きやタオル等をたたむ作業をしてもらい、存在感を高めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報収集し、その後の会話と対応の中で暮らし方を知り、記録に残し、職員間で共有し、支援に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の心身状況の変化が見られたら、記録や申し送り時に情報共有しており、本人とコミュニケーションを図りながら、行動や動作からの生活リズムの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身状況の変化に応じたケアのあり方について、本人の意向や家族の希望を聞いた後、医療関係者・職員と意見交換を行いながら、モニタリングを行い介護計画に反映させている。	職員で協議し、その結果を本人・家族や市の担当者・協力医と話し合い、介護目標を明確にしている。 変化等新しい情報は朝のミーティング時や記録簿で共有化し全職員で課題解決にあたり介護計画・介護目標に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルの記録は、職員間の情報交換を行いながら、毎日実施している。 連絡ノートを活用したり朝礼などで話し合い、実践・介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に外出支援を行い、同法人施設利用者様との交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に訪問理容サービスを利用している。 同法人のマイクロバスを借りてショッピングセンター、ふれあいパークへ出かけている。 弊社の他事業所とも交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による定期往診を受けている。また本人の今までのかかりつけ医への家族同行による受診をされている利用者もいらっしゃる。 職員は、家族や医療機関に心身状況の変化等を報告している。	協力医が月2回、定期往診をしているので、報告を受けている。体調変化があった場合、家族・本人や市の担当者と協議しながら介護計画を作成している。かかりつけ医の受診を受けている利用者にもできる限り、情報を提供していただき、介護計画に反映しながら医療機関との関係を築くと共に、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、入居者の体調や状態変化に気づいた際は、所長に連絡し、訪問看護師に報告・相談し、対応法についての助言を受けている。 必要時には、受診等の医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、医療関係者に本人の普段の状況、急変時の状況を伝えている。 定期的に見舞い、家族・医療関係者から状態を伺い、退院後の生活についてのカンファレンスを医師・家族・本人と共に行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期対応指針に基づいて、本人・家族と話し合い、事業所でできる支援を説明している。 協力医療機関・訪問看護師と連携しながら、適切な対応が図られるよう取り組んでいる。	「重度化・終末期対応指針」が整備され、それに基づき、本人・家族と十分話し合っ、方針をたて、協力医療機関及び訪問看護師とチームを作って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティング時に行う研修時に、救命救急などの訓練を行い、実践力を身につけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いの下、地震に伴う火災や夜間時の災害の防災避難訓練を、入居者参加で行っている。 運営推進会議では地域住民の協力をお願いしている。	消防署の協力を得て。年2回防災避難訓練をおこなっている。スプリンクラー・火災通報専用電話・火災受信機が設置され、廊下にも2箇所の非常口がある。災害時においての地域住民との協力体制も整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に常に気を配り、失礼のない言葉使いを基本として、その人らしい生活の支援に努めている。 プライバシー保護の研修も行っている。	マニュアルが整備され、全職員がプライバシー保護研修・接遇マナー研修を定期的に受けている。一人ひとりの人格を尊重した言葉遣いや仕草に配慮している。誇りやプライバシーを損ねないよう十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、本人の思いや希望を伺い、言葉での意思表示が難しい場合には表情や反応を注意深く観察して意向を汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日のスケジュールはあるものの、入居者それぞれのペースを優先し、希望に合った生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服が選べるよう声掛けや、必要に応じて支援している。 2か月に1度理容師に在所してもらい、希望に応じて散髪していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じ食卓を囲み、楽しい雰囲気作りを心がけ、季節行事に合わせたメニューを取り入れたり、外食をするなど、食事が楽しみになるよう努めている。 入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付けを共同で行っている。	オープンキッチンなので、調理している様子が見られ、湯気やにおいなどで家庭の雰囲気に近づけている。能力により食事の準備や後片付けに協力してもらっている。日々のメニューもホワイトボードに大きな文字で掲示されている。食事前に口腔体操をおこない誤嚥を防ぐ工夫をしている。職員が各テーブルに分散し談笑しながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼・夕の献立や食材は業者に委託し、栄養バランスに配慮した食事を提供し、毎食の摂取量も記録している。必要に応じて刻み食・ミキサー食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に応じて、声掛けや介助により口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら個々の排泄パターンを把握して、なるべくオムツやパッドの使用を減らし、トイレで排泄できるよう声掛けや誘導を行っている。 夜間もポータブルトイレや尿器の使用、トイレ誘導など排泄支援を行っている。	排泄巡回記録表が整備されプライバシーを保ちながら、時間・排泄量をチェックしている。食事を除き、一日あたりの水分摂取量を1,500ミリリットルを摂るよう配慮している。夜間でも声かけにより、ポータブルトイレや尿器の利用、及びトイレ誘導をおこない自立に向けた排泄支援をおこなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で便秘を把握して、食事や水分摂取量に注意し、メニューの工夫や運動への働きかけをした上で、必要に応じて主治医や訪問看護の看護師に相談、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週6日入浴時間を設け、できるだけ本人に洗身・洗髪して頂けるよう声掛け見守りを行っている。 体調に応じてシャワー浴・清拭・足浴等を実施している。 入浴を拒否する方にも声掛けを工夫し、無理強いせずに入浴していただいている。	入浴は週6日実施され、体調により入浴できない場合、柔軟な対応をとり、希望に合わせて清拭や足浴・シャワー浴をおこなっている。 危険防止のため、職員が入浴支援をおこない、楽しみながら安心して、入浴出るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩やドライブ、レクリエーション活動などで生活にメリハリをつけるとともにエアコンで居室を適温にして安眠につながるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースに説明書と一緒に保管して、職員がすぐに確認できるようにしてある。 処方が変わった場合は、申し送り帳に記入し、口頭での申し送り時にも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力や経験を活かした役割が持てるよう、掃除や簡単な調理、洗濯、縫い物等をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望にそって、体調や天候を考慮しながら散歩やドライブ等に出かけている。 毎月、弊社の他事業所から福祉車両を借りて、外食を兼ねて外出している。	随時、希望に添った支援をおこなっているが車イス利用の方が7名いるので、安全に配慮しながらおこなっている。月一回外食を兼ねて外出している。また、年間計画の中に小学校の運動会に招待され見学している。その他、花見等季節に合わせた行事が計画されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご自分で財布を持ち、外出の際に買い物をされる方もいらっしゃる。それぞれの能力に応じた支援を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙はいつでもできるよう、常に支援している。年賀状のやり取りもされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節感を持たせた装飾をしている。リビングにはテレビを囲むようにソファを配置し、入居者同士が一緒にくつろげる空間作りをしている。	施設内はバリアフリーになっている。共用スペースを中心に玄関・事務室・オープンキッチン・トイレ・浴室が整然と配置され、安全面でも配慮されている。居室につながる廊下は日当たりが良く日光浴ができる。利用者の作品や季節の花が飾られ、居心地の良い生活空間をつくる配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓用テーブルをふたつに分け、ソファも3脚設置し、自分のお気に入りの場所を作ったり、気の合った方同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでいただいたり、ご家族や自宅の写真を飾ったりと、それぞれに居心地の良い空間になるよう工夫している。	居室は衛生面を考慮してフローリング床になっているが、希望によって畳を敷くこともできる。使い慣れた家具を持ち込んでいる利用者もいる。居室の窓側は水田が開け素晴らしい景色となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、廊下やトイレ・浴室への手すりの設置など安全面に配慮した上で、能力に合わせ自立した生活が送れるよう支援している。		